

新興国レポート

中国が1年8ヵ月ぶりに利下げ

消費の伸び悩みや不動産開発の停滞で減速傾向にある景気を刺激

- ▶ 中国人民銀行（中央銀行）は12月20日、事実上の政策金利と位置付けられる1年物の最優遇貸出金利（ローンプライムレート）を0.05%引き下げ。
- ▶ 12月15日の預金準備率の引き下げと今回の利下げで、人民銀行の金融緩和姿勢がより明確になったものと思われる。
- ▶ 利下げの幅が前回2020年4月の0.2%より小幅であったことから、追加利下げを見込む向きも。

(1) 1年8ヵ月ぶりに利下げ

- 中国人民銀行（中央銀行）は12月20日、優良企業に適用する貸出金利の参考となり、事実上の政策金利と位置付けられる1年物の最優遇貸出金利（ローンプライムレート）を0.05%引き下げ、3.80%としました（図表1）。中国では10月下旬から新型コロナウイルスの感染が再拡大し、省をまたぐ出張や旅行への制限が強化されました。外食や娯楽の自粛等が影響し、11月の小売売上高の伸び率は前年同月比3.9%と10月の同4.9%から鈍化しました。また、政府の規制強化で不動産開発投資も減速傾向が続いています（図表2）。消費の伸び悩みや不動産開発の停滞で減速傾向にある景気を刺激するため、人民銀行は2020年4月以来1年8ヵ月ぶりに金融緩和に踏み切りました。
- 尚、住宅ローン金利の目安とされる5年物は4.65%のままで据え置きました（図表1）。不動産投機を引き続き抑え込む姿勢を示すためと見られています。

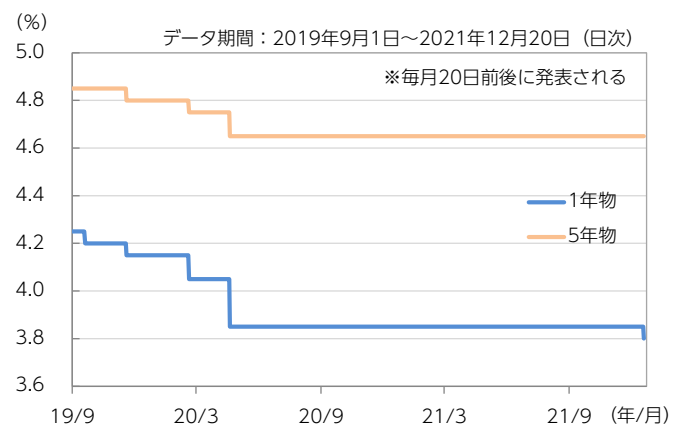
(2) 人民銀行の金融緩和姿勢がより明確に

- 人民銀行は12月15日、今回の利下げに先行して市中銀行から強制的に預かるお金の比率を示す預金準備率を0.5%引き下げました（図表3）。準備率を下げると、市中銀行の手元資金が増え、貸し出しに資金を回しやすくなるため、金融緩和的な効果があるとされます。人民銀行は、今回の措置で準備率は加重平均で8.4%に下がり、約1.2兆人民元（約21兆円）が市場に放出されるとしています。
- 預金準備率の引き下げと今回の利下げにより、人民銀行の金融緩和姿勢がより明確になったように思われます。

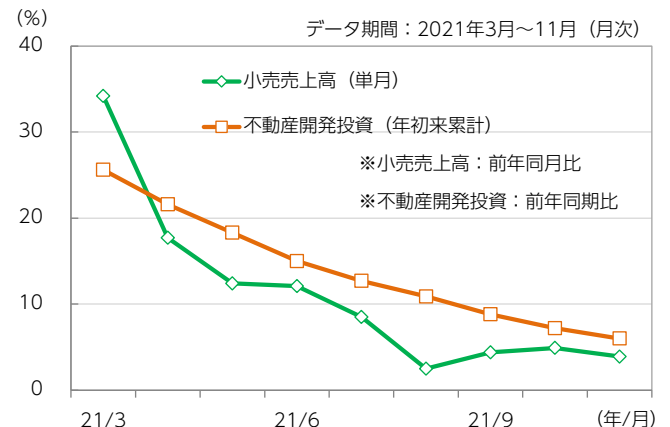
(3) 追加利下げ観測も

- 前回2020年4月の利下げ幅が0.2%であったのに対し、今回は0.05%と小幅なものとなっています。景気への影響は限定的であり、追加利下げが行われるとの見方もあります。

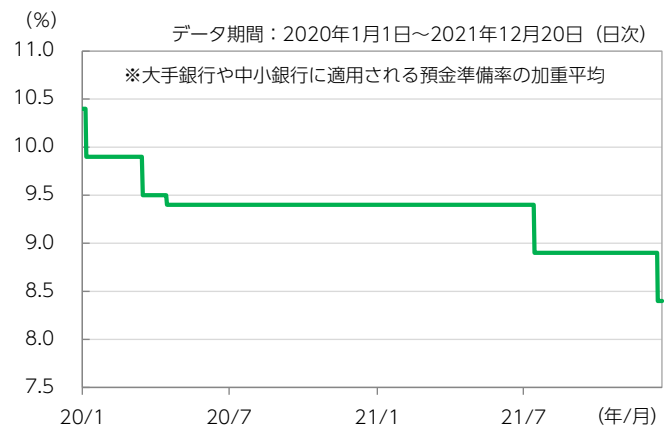
図表1：最優遇貸出金利の推移



図表2：小売売上高と不動産開発投資の推移



図表3：預金準備率の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>